

消防庁は、自治体消防制度四十周年を迎えた昭和六十二年から、十一月九日を市民と消防の結び付きを象徴するダイヤルナンバーにちなんで「二一九番の日」としました。これは一人ひとりが消防に対する正しい理解と認識を深め、防災意識の高揚やさらに地域ぐるみの防災体制を整えることを目的として設けたものです。

## 11月9日は「119番の日」

突然ですが、へ二十三万三千六百十九件これは何の数字だと思いますか。なんと消防局指令センターにかかった平成元年度の二一九番通報です。主な通報内容は、火災・救急などの災害通報が八万九千七十二件(三八%)、救急病院など問い合わせが三万六千九百一十一件(二六%)、間違い・いたずらが五万

張所に指令を出します。

市内の病院、警察、区役所、气象台、そのほかの防災関係機関や報道機関などを結んだ防災ネットワークで被害を最小限に食い止めます。一刻も早く現場に到着し、効率的な消防・救急活動を行い安全な市民生活を守るために、二十四時間出場に備えています。

### 「消防」への正しい理解をPR

四千四百六十一件(二三%)、通報訓練その他が五万三千百七十五件(二三%)で一日に平均すると約六百四十件になります。

横浜市全域の二一九番通報は、保土ヶ谷区総合庁舎敷地内にある消防局指令センターの中の指令室で、受信。

指令室は、通報を受けると素早く位置を確認し、最も適した消防署・消防出

### なぜ119なの？

緊急時に1・1の数字を回すのは早いけれど、なぜ最後に時間のかかる9を回すのでしょうか。実はダイヤル方式に慣れていないころ、掛け間違いを少なくするため人の指も電話交換機も間違いにくい数字を。さらに9を回す間に気持ちを落ち着かせるという狙いもあると言われています。119番は「火事」か「救急」かを言い住所は区名から名前まで正確に。